

二 本佐倉城下の館跡

本佐倉城と城下町

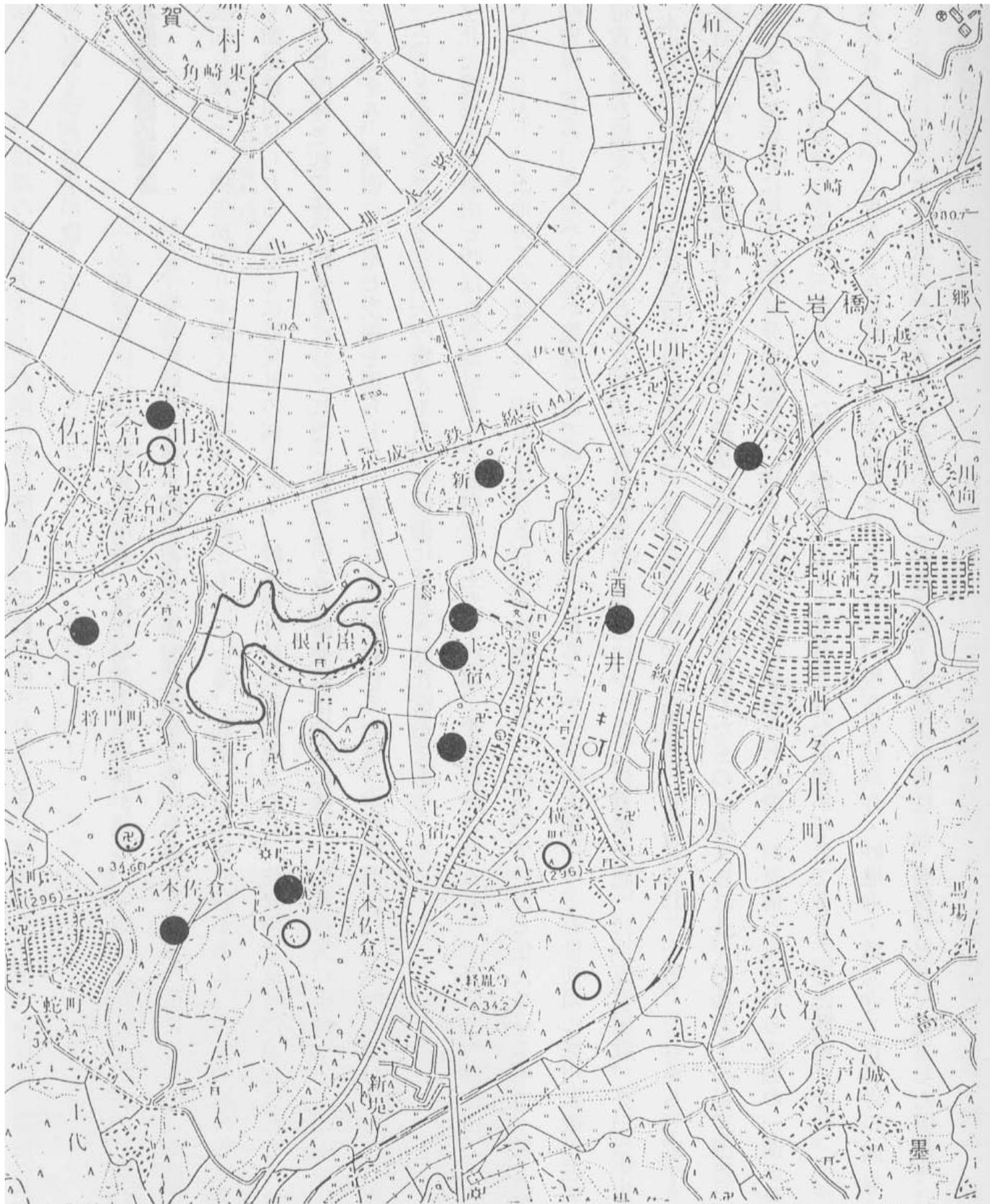
本佐倉城が千葉氏の根拠地として、下総鎮方の中心的役割を果たすことに伴って、千葉氏は、支配関係の統制強化や軍事的目的から、家臣を一人でも多く、城郭の内外に集めたものと思われる。同時に支配地と結ぶ交通路の整備等をして、人や物資が集まり易くして城下町を京成したものと考えられるが、これを記録する文献資料は少ない。しかし、本佐倉城をとり巻く酒々井や本佐倉の台地上には、有力家臣の居館跡が存在し、それらか真の菩提寺と思われる寺跡、千葉氏の守護神である妙見社跡もあって、千葉一族の居館と思われる跡も散在している。また、城下集落の地名であるとする根古屋が、本佐倉や佐倉市将門町に残るところから、城下町が可成り開けていたものと思われる。その城下町の範囲を示すかのように、家臣団の居館跡等が残されている。

酒々井地区の館跡

酒々井地区には、所城をはじめとして家臣の館や侍屋敷が置かれていたことが、『印旛郡誌』に記載されている。酒々井小学校から北方に突き出る台地先端に巖島山がある。『郡誌』には「千葉家の臣小別当某酒々井字巖島山に墨を築き―。」とある。最上面が平坦になって、東と西側に腰郭を二段に備えた程度で、畑耕作された為かこの外には人工的な防禦遺構は見られない。印旛沼の眺望の良いところで、物見の役割も果たしていたものであろう。

小学校西側の酒々井字内方に、肥前屋敷、右京屋敷と呼称されている屋敷跡が、台地端に続くが、農地化されて、遺構は右京屋敷の土墨の痕跡と腰郭程度で他は消滅している。近くに妙見社の祠があったという。右京屋敷東側に東城寺跡、円福寺がある。

字東台には、侍屋敷が置かれていた。ここから北に半島状に伸びていた台地先端の字所城に、複郭を構えた城郭があったが、東台や所城の台地は、道路や住宅開発により消滅している。字馬場の地は、現在は町並みから一メートル余り高くなって、畑耕作され平坦となっているが、西南寄り崖端に土墨、空堀の痕跡が認められ、妙見の祠もあった



●印遺構破壊・消滅地

4-24図 本佐倉城付近の城館跡分布図

と伝えている。馬場の西南方字上宿の崖中段に腰郭状の行こうが残されている。馬場から上宿にかけて、崖沿いに館が設けられていた様子が窺える。

本佐倉地区の館跡

本佐倉地区には、弥兵衛屋敷、猿楽場館等の遺構が残る。字山王に良好な状態で遺構が現存し、弥兵衛屋敷と呼ぶ館がある。周囲に土塁と空堀を廻らし複郭の構えをもち、南側に小さな腰郭を設けて、横矢がかりも備えた小城郭の機能ももっている。郭内に山王様の祠がある。字猿楽場の妙胤寺境内にも館遺構が見られる。近くに妙見社の祠もある。妙胤寺は初め弥勒院と称し、佐倉市大蛇町に建立されていたが、妙胤寺と改称されて後、猿楽場に移されたと伝えている。館遺構は良好に残り、本堂の裏に東西七〇メートル、南北六〇メートル、周囲に土塁と空堀を廻らして、東南に虎口を設けている。本堂の西側に土塁の痕跡が見られ、複郭であったことが想定できる。横矢の構えもあつて防備に留意された構造である。

字北大堀には御殿山と呼ばれる地があり、此処にも土塁や空堀、腰郭が見られるが、主要部は畑耕作により消滅している。しかし、土地の人の話では、南方に広がる台地を空堀によって区切っていたと伝えているので、城下町外周の防禦線にした、空堀や土塁が施設されていたのではないだろうか。字南大堀には、近世初頭に徳川家康の五男、武田信吉が館を構えて、大堀館と称されていたが、この大堀館について『佐倉風土記』に「万君屋敷、亦曰根小屋、在本佐倉南大堀、…是源信吉建館之处、俗言館舍地、為屋敷」と記載されている。これから想定すると、本佐倉城時代に館が造られていて、その遺構に新しく建物を施設したものと考えられる。昭和六十一年、国道二九六号線バイパス親切に伴う文化財発掘調査が、清光寺裏の畑地に実施された際、館遺構と見られる空堀の一部が発見されている。大堀や方の位置は不明であったが、調査によって発見された遺構がそれであることは間違いない。

本佐倉地区は、このような館跡の外、寺院の多いところで、現在も経胤寺・妙胤寺・清光寺・吉祥寺の四寺がある。この外に廃寺となった寺が八か寺もあるのはこの地に有力家臣団が居住し、菩提寺として建立した関係ではないかと考えられる。

上本佐倉字上宿に、東西約四〇メートル、南北約三〇メートルの遺構が現存している。周囲を土塁で囲み、東と西側に空堀が残り、北と南側には腰郭を設けている。虎口を東側に置き、横矢を構え防禦を固めている。北東側一段低い位置にも、土塁と空堀が見られたが消滅してしまった。

下台字裏畑にも、南北七〇メートル、東西四五メートルの遺構が残されている。東と西側に腰郭を、北と西側には土塁と空堀を設け、横矢の構えをもつ館で、突出した台地に構築されている。

その他の館跡

本佐倉城の西方に当たる佐倉市将門町や大佐倉にも、屋敷等が置かれていたようで、将門町に根

小屋の地名がある。京成電鉄の軌道より南側、大佐倉の台地上に妙見山と呼ばれるところがあり、妙見の祠の跡が伝えられている。この付近に城館跡が見られると、『古今佐倉真佐子』に記されているが、いまは開発されてその遺構は見られない。大佐倉字花輪の台地上に、周囲より二メートル位高くなって、土塁と空堀を設けた小遺構が残されている。これより北方一〇〇メートルに、浪人屋敷と呼ばれる跡があるが、主要部は採土によって消滅している。地表面より一メートル天地高い四角い土壇と土塁の痕跡が残る位である。花輪の台地上からは、本城は勿論のこと印旛沼を眼下に望む位置であり、古くから沼の河岸として知られている浜宿河岸と、前面の沼を監視する役目をもつ、一種の城塞設備ではなかつただろうか。

三 岩橋城跡

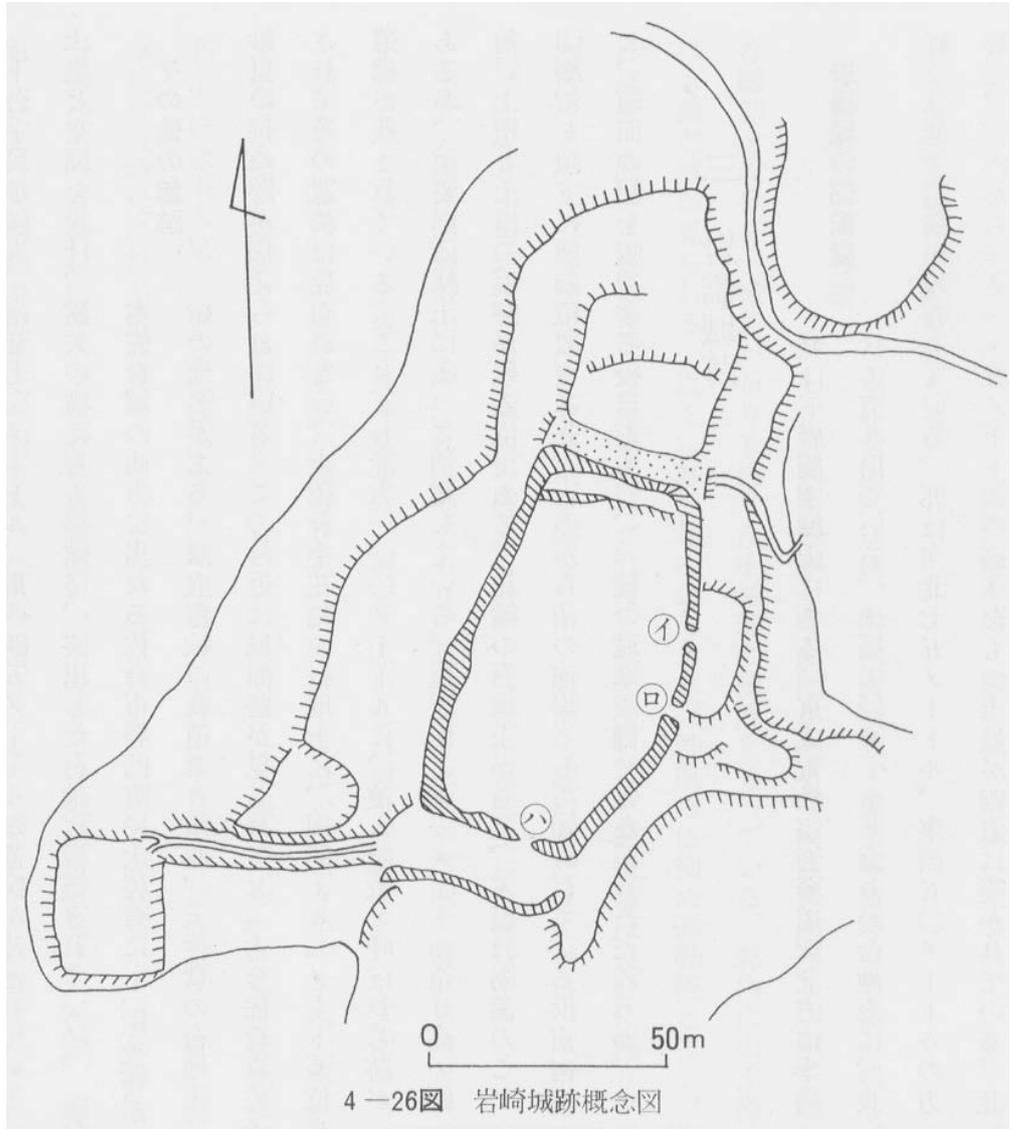
岩橋城の郭配置

城は下岩橋字城山にある。京成電鉄宗吾参道駅北方に半島

状に突き出ている。比高に二〇メートル余りの台地上に、良好な状態で遺構が現存している。郭は南北七五メートル、東西五〇メートルの方形で、郭内から一・五メートルの高さをもつ土塁が四方に築かれている。



4—25図 岩橋城跡遠景



4-26図 岩崎城跡概念図

位で高さ一メートル弱の土塁が残る。㊦は坂虎口となっている。

岩橋城と岩橋殿

西側の崖を一〇数メートル下ると、古屋敷と呼ばれている跡があり、井戸跡も認められる。城の関係者の屋敷地と思われ、南側腰郭から、これを結ぶ通路が見られる。岩橋城の城主を伝え

北側に空堀東と南側に腰郭を配して、西側は崖となっている。東側の土塁中央部は、㊦、㊧の二か所開かれているが、㊨の位置は作業用として後世に開かれたものと思われ、㊦の位置が虎口として使用されていた。虎口の前面は、一メートル位低く平となって、ここから北と南側の腰郭に向けて横矢がかりとなっている。

北側の空堀外方は、ゆるやかな傾斜地であるが、外郭として使用されたものと思われ、東側に腰郭の構えが残り、北東方の道路の開けている辺りには、木戸坂とか東門と呼ばれる地名が伝えられている。南側の腰郭は、幅五メートル

る文献史料はないが、本佐倉城を築城した輔胤が、千葉介となる以前岩橋殿と称されて、この岩橋城に居城していたと推定される。本佐倉城とともに、良好な状態で遺構が保存されていて、当地方として勝ちある城跡である。

四 上岩橋城砦跡群

殿辺田城 上岩橋の台地には、殿辺田城・重右衛門屋敷・城ノ越砦その他の遺構が連なり、妙見社も二社祀られて、

千葉氏との関係の深いことが窺える。

殿辺田城は、国鉄成田線や道路によって切断されているが、妙楽寺前の台地が南に延びている先端部、トラフ山と呼ばれる比高二〇メートルの地にその遺構がある。南北三五メートル、東西七〇メートルの郭を本郭として、北側に空堀を隔てて二郭があったが、採土によって主要部は消滅して、わずかに本郭から北東方に四〇メートル程延びる土塁が残されているにすぎない。本郭内には、北側に土塁の一部と北東隅の物見台が残る程度である。東と南側には腰郭を配して、西側から北側に空堀が見られる。道路と国鉄軌道の間台地にも、土塁の痕跡が見られるので、城域として使用されていたものと思われる。この城は上岩橋城砦跡群中、最も要害性の高い城であったと考えられるが、破壊が進んでおり残念なことである。

重右衛門屋敷と城ノ越砦

重右衛門屋敷は、妙楽寺を建立した千葉氏一族木村氏の城跡と伝えられている。しか

し、一部の土塁と腰郭を残すだけで、宅地造成により破壊されている。南側腰郭に妙見の祠がある。

城ノ越砦は、上岩橋台地の最北端に当る、比高十数メートル余りの半島状台地先端部にあった。台地側を掘切りによって区切って、独立大地状にした単郭で、帯郭を構えた遺構が見られたが、ここも採土によって消滅してしまった。

この外、駒形神社西南方に位置する元妙見と伝える地にも、土塁と空堀の痕跡が認められる遺構がある。また妙楽寺裏山にも土塁に囲まれた遺構が認められるなど、上岩橋は中世遺構の多い地区である。

五 その他の城砦跡

その他、酒々井町内には、飯積区の清宮屋敷、墨区の要害城、伊篠区等に城砦跡があると、『郡誌』その他の文献に記載されている。清宮屋敷と伝える付近は、人家及び畑地となって変貌しているため断定は困難である。或いは、堀之内と呼ぶ辺りがその跡ではないだろうか。要害城は、墨字戸城の通称りゆうがいと呼ぶ畑地が城跡であったことは間違いないが、虎口と見られる辺りに、空堀の一部が残されて、横矢を構えていたことがわかる程度である。伊篠区には千葉氏の有力武将、栗飯原氏の拠点が置かれていたと文献に見られるが、遺構の確認は出来なかった。